

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

みなかみユネスコエコパークの取組～みなかみの自然をまもり、いかし、ひろめる～

2 取組期間

平成24年度～（継続中）

3 取組概要

首都圏3,000万人の生活を支える利根川の最初の一滴を生み出すみなかみ町。東京都心から1時間ちょっとで訪れることができる距離にもかかわらず、ここには日本を代表する貴重な自然が数多く残されている。谷川岳に代表される山岳景観や農村景観が広がり、豊かな自然と上手につきあいながら人々の暮らしが営まれている。

みなかみ町ではこのすばらしい自然を町の最も大切な宝にかかげ、自然を守り、活かし、広めていく取組を進め、人と自然が共生する持続可能な地域づくりに取り組んでいる。また、谷川岳のエコツーリズムの取組、林野庁・日本自然保護協会・地域住民の3者が協働し生物多様性の保全や活用について取り組む赤谷プロジェクトの取組などの地域主体の取組も進んでいる。

このみなかみ町の暮らしがこれからも持続し発展していくことを目的に、自然との共生の世界的モデル地域であるユネスコエコパーク（正式名 Biosphere Reserve）の登録をめざし、平成29年6月、みなかみユネスコエコパークが誕生した。

4 背景・目的

利根川源流域に位置する群馬県の上野原町、月夜野町、新治村の3町村は平成16年9月、水源の地に暮らす者として、山と森林と川を守り、万物が脈々と生存し続けることを願い「谷川連峰・水と森林防人宣言」を行い、その理念のもとに平成17年10月1日『みなかみ町』が誕生した。平成20年3月には、みなかみ町の最大の宝であり、資源である自然環境や立地条件を最大限に活かすための地域振興構想「水と森を育むエコタウンみなかみ ～ふるさとの資源を活かした地域振興構想～」を策定した。これを受けて同年9月には水をテーマとして、自然と人間の共存共栄の関係をマネジメントする力「環境力 ー水と森林をまもる・いかす・ひろめる力ー」を育み、源流域に暮らす者としての責務を果たしつつ地域の活性化を図ることを目指した『みなかみ・水・「環境力」宣言』を行い、水や森林をはじめとする豊かな自然環境を「まもり・いかし・ひろめる」ための様々な取組を推進してきた。

ユネスコエコパークへの登録のきっかけとなったのは、平成24年にユネスコエコパーク登録された宮崎県綾町への現地視察である。

ユネスコエコパークの理念と町の方向性が一致していること、そして平成25年度に町長の諮問機関である「まちづくりビジョン策定委員会」において「人間と自然が共生するユネスコエコパークの理念を将来のまちづくりの柱とすることが答申されたこと、などから町として本格的に登録へ向けた取組が始まった。みなかみユネスコエコパークは、平成28年8月、日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会人間と生物圏(MAB)計画分科会によりユネスコへの推薦が決定し、9月末日にユネスコへ申請書が提出された。そして平成29年6月14日、フランスのユネスコ本部において開催されたユネスコ人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会で審議されみなかみユネスコエコパークが誕生した。

5 取組の具体的内容

H16(2004) 9月	『谷川連峰・水と森林防人宣言』・合併の理念として旧3町村(月夜野町、上野原町、新治村)にて宣言
H17(2005)10月	『みなかみ町』新設
H20(2008) 3月	『エコタウンみなかみ～ふるさとの資源を活かした地域振興構想』
H20(2008) 9月	『みなかみ・水・「環境力」宣言』 ～水と森林を まもる・いかす・ひろめる力～
H24(2012)10月	綾ユネスコエコパーク登録を受け検討を開始
H25(2013)12月	まちづくりビジョン策定委員会の設置 (産業振興に係る町の将来像を検討する諮問機関) ・町の最大の資源であり宝である自然や里地里山景観をいかし地域を経営する。委員会よりエコパークの理念を核とし進める答申
H26(2014) 7月	みなかみ町役場にエコパーク推進室を設置
H27(2015) 8月	日本ユネスコ国内委員会に申請書概要の提出及び意思表明
H27(2015)10月	「みなかみ町 まち・ひと・しごと創生総合戦略」 ・ユネスコエコパークの認定を目指し、人と自然が共生したまちづくりを力強く推進すると明記
H28(2016) 8月	日本ユネスコ国内委員会へ申請書(和文・英文)の提出→国内推薦決定
H28(2016) 9月	日本ユネスコ国内委員会からユネスコ本部へ推薦
H29(2017) 6月14日	ユネスコMAB計画国際調整理事会による審議 →みなかみユネスコエコパークの誕生

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

世界から評価されたことにより、住んでいると気づかないみなかみ町のすばらしさに住民があらためて気づき、みなかみ町に住んでいてよかったと思ってもらえるよう当該取組の普及啓発を図った。

7 取組の効果・費用

- ・世界的ブランドによる農業や観光産業など町の経済への良好な波及効果
- ・環境教育の推進
- ・郷土愛の醸成
- ・定住移住の促進 など、自然と共生を図る持続的な地域づくりの実現が期待できる。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・みなかみユネスコエコパーク内の自然環境に関する情報の集約
- ・ユネスコエコパークに関する国内の事例及び情報の収集
- ・関係者への理解

9 今後の予定・構想

利根川の最初の一滴を生み出す利根川源流域に位置するみなかみ町には、豊かで貴重な自然が数多く残されており、私たちは、その自然の恵みを楽しみ、観光や農業に活かしながら生きてきた。

源流地域にみならず私たちは、地域の最大の宝であり資源である自然や景観、水をはじめとするたくさんの森林の恵みを、次世代へとつないでいく責務を有している。

この大切にまもり引き継がれてきた自然環境に畏敬と感謝の念を心に刻みつつ、自然と人間社会が共生する持続可能な地域を実現するため『利根川源流のまち、水と森と人を育むユネスコエコパーク』をテーマに掲げ、“水と森林”を育み、それを「まもる・いかす・ひろめる力」を携えた“人”を育てていくことで、さらなる発展を目指すとともに、町のすばらしさを再認識し、世界に発信していく。そして、みなかみ町に関わる全ての人たちが、それぞれ一体となって、どうしたら、まもり・いかす・ひろめることが出来るかを考え、実践することで価値を高め、地域力や世界的なブランド力を向上させ、ユネスコエコパークとして、魅力ある地域を創造し、次世代を担う者たちが世界に誇り、世界中から愛され自慢できる持続可能な地域づくりを進めていく。

10 他団体へのアドバイス

ユネスコエコパークは、我が国において知名度は低いものの、2018年5月現在、世界120カ国669地域が登録されるなど世界的ブランドである。現在、国内に9つあるユネスコエコパークや文部科学省などの関係機関を中心に国内への普及啓発を図る取組が進められているところでありその伸びしろは無限大である。

11 取組について記載したホームページ

<http://www.town.minakami.gunma.jp/minakamibr/>